

青刈ダイズ「アソアオガリ」の飼料価値について

日高 操・沢田 耕尚  
(九州農業試験場)

HIDAKA, M. and SAWADA, T.  
The Nutritive Value of Soiling Soybean "Asoagari"

熊本県農試阿蘇分場で育成された青刈ダイズ「アソアオガリ」について

過去6年間栽培試験を行つた結果平均a当り382.0kgの多収を得たが、今年度は羊を用いて消化試験を行ない、「アソアオガリ」の飼料価値について検討したのでそのその概要を報告する。

試験方法：給与方法、生草の場合は給与時の朝夕2回に分けて刈取り、長さ20~30cmに切断して自由採食させた。乾草では生草試験の本試験期間中(7月30日、生育ステージは開花揃)に刈取り乾燥し、その後品質を一定にするために作物乾燥室内に貯蔵して、毎給与時に必要量を取り出し、生草と同様に切断して与えた。毎日朝の給与時に少量の食塩を与え、水は自由に飲ませた。

消化試験：4才2ヶ月令の♂羊3頭を1組として常法により行つた。毎朝残食を精密に秤量し、各試験区とも6~7日間を予備期とし、5日間の本試験を行つた。採食量/給与量×100を仮採食率と考へた。1頭ごとの各成分の消化率を測定し、3頭の平均値で可消化成分量を算出した。

成績及び考察：生草、乾草の両試験を通じ、連日30°C以上の高温期に実施したが、体重は予備期に若干増加し、本試験期では多少減少した。供試材料は第1表のとおりで、生草の場合は若干若刈の影響も考えられ粗蛋白質は他の報告(1)に比べて低い成分値が得られた。しかし乾草ではかなり高かつた。消化率は第2表に示すが、粗蛋白質と可溶無N物が良好で、粗せんい

と粗脂肪は低かつた。可消化成分量を第3表に示すが生草では粗蛋白2.8%, T.D.N.10.3%, 乾草で粗蛋白質13.6% T.D.N. 43.0%で高い結果を得た。霧島盆地地域ではかなりの多収を期待出来るので、飼料価値が再認識された。今後は乾草又は乾草ミールについて、消化試験の適季節に追試験を行い不備の点を補正したい。

参考文献：(1)畜産試験場特別報告No.3(1964)乳牛の飼養標準に関する研究Ⅳ。地域的飼料成分調査成績P28~38。

第1表 供試試料の概要

	刈取時期	生育ステージ	収量 kg/a	一般成分組成 (%)					
				水分	粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維	粗灰分
生草	7月30日	開花揃	463.7	81.2	3.6	0.6	6.5	6.7	1.5
	8月4日								
乾草	7月30日	〃	101.6	14.6	17.5	1.3	28.9	31.3	6.7

第2表 乾草給与における採食量・消化率

供試羊名	採食量 1頭1日当り (g)	仮採食率 (%)	採食量 体重%	消化率 (%)			
				粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維
K62-3	390	62	1.1	78	26	63	46
K62-5	1046	85	1.5	78	22	60	37
K62-7	591	70	1.2	77	23	57	26
3頭平均	676	72	1.3	77	23	60	36

第3表 乾物量および可消化成分含量

試験別	生育ステージ	乾物量 (%)	可消化成分含量 (%)				
			粗蛋白質	粗脂肪	可溶無窒素物	粗繊維	T.D.N
生草	開花揃	18.8	2.8	0.2	4.2	2.8	10.3
乾草	〃	85.4	13.6	0.3	17.3	11.4	43.0